

日本労働年鑑 第68集 1998年版  
The Labour Year Book of Japan 1998

特集 現代日本の社会福祉労働—その現状と課題

はじめに—本特集の対象と課題

日本社会では高齢化あるいは少子化に伴って、社会福祉領域で発生する諸問題への対応が強く求められてきた。なかでも高齢社会の成立は、人々が高齢者として生活する期間の延長をもたらした。たとえば七五歳以上の「後期高齢者」の増加に伴って、「寝たきり者」あるいは要介護者の比率が高まりつつある。

こうした要介護者の増加は、単に加齢に起因するものだけではなく、介護サービスの未整備といった社会的要因にも原因が求められる。その結果、要介護高齢者に対する介護をいかなる主体がどのような方法で担うべきなのかといった、社会福祉サービスの担い手をめぐる問題があらためて問われることともなった。

本稿の最も根本にある問題は、こうした社会福祉サービスに従事する人々の現状と課題を明らかにすることにある。したがって、究極的には、すべての社会福祉関係労働者の問題が包括的に検討されるべきであろうが、ここでは高齢者の介護サービスなどに従事する人々、なかでもホームヘルプサービスを中心に検討していくことにしたい。

そこで以下では、七〇年代以降の社会福祉労働をめぐる動きにごく簡単にふれたうえで、(1)家族形態の地域性、(2)高齢化の地域性、(3)近年の社会福祉領域におけるサービス供給主体の多様化など、社会構造や状況の変化をふまえ、こうした変化の実態を整理したうえで、地域性の差異に留意しつつ、ホームヘルプサービスを中心とする社会福祉労働を取り巻く現状と課題の一端を検討することにしよう。

日本労働年鑑 第68集

発行 1998年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 旬報社

2006年9月15日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑第68集【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)